

交通と他分野との関連性
～ 行政目線からのロジック化・データ化の試み ～



2023年7月12日(水)
三豊市 政策部 地域戦略課

みとよ 香川県三豊市の概要



香川県の西部に位置し、海・山・田園地帯を有する自然豊かなまち

平成18年1月発足
(7町の対等合併により誕生)



面積222.73km²
人口 : 59,352人 (令和5年4月1日時点)
世帯数 : 23,116世帯 (同上)

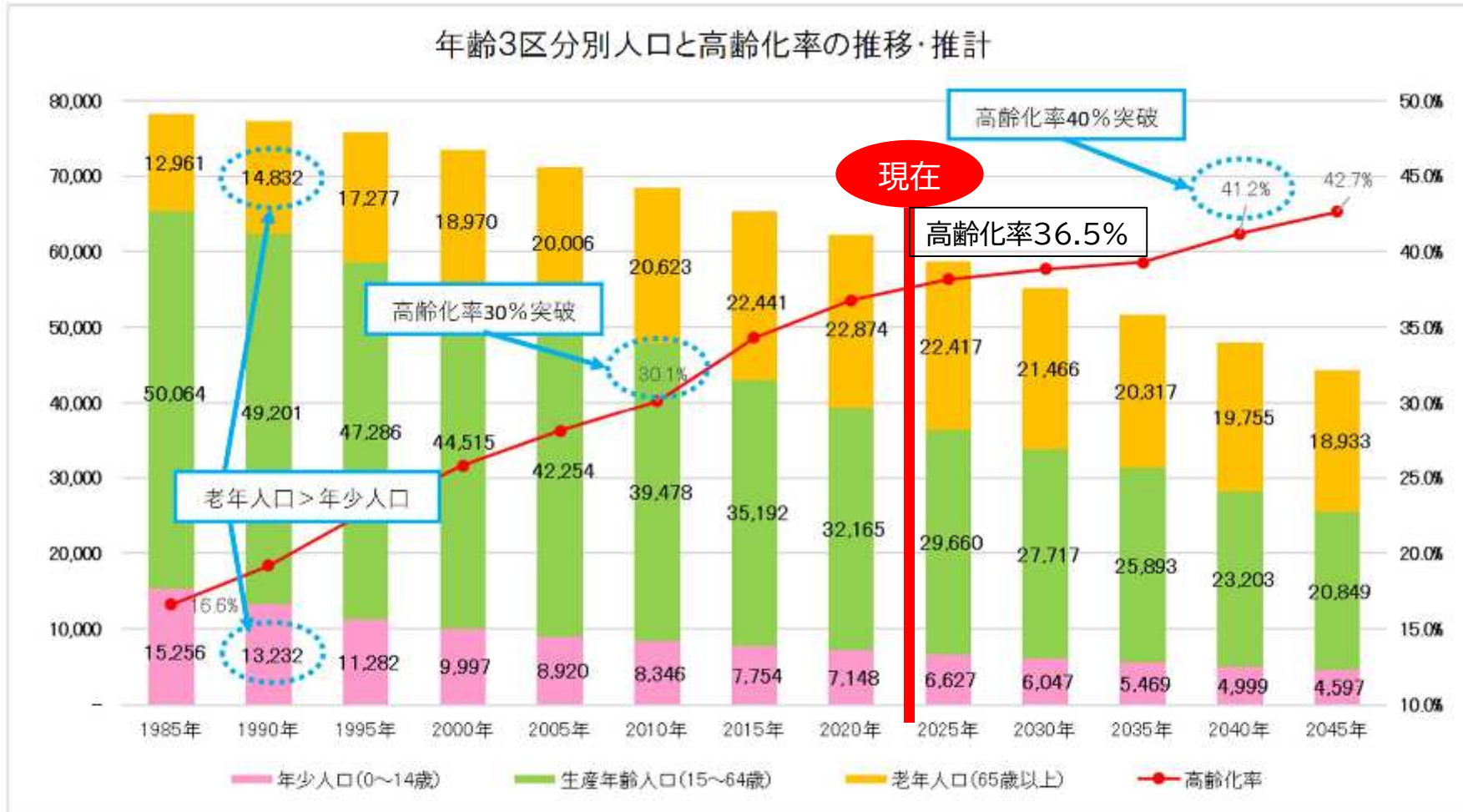


詫間町の紫雲出山 (しうでやま)



仁尾町の父母ヶ浜 (ちちぶがはま)

三豊市の現状と交通課題



資料：(～2015年) 総務省「国勢調査」

(2020年～) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

フルセットでまちづくりを行ってきた
7つの町の「**対等合併**」

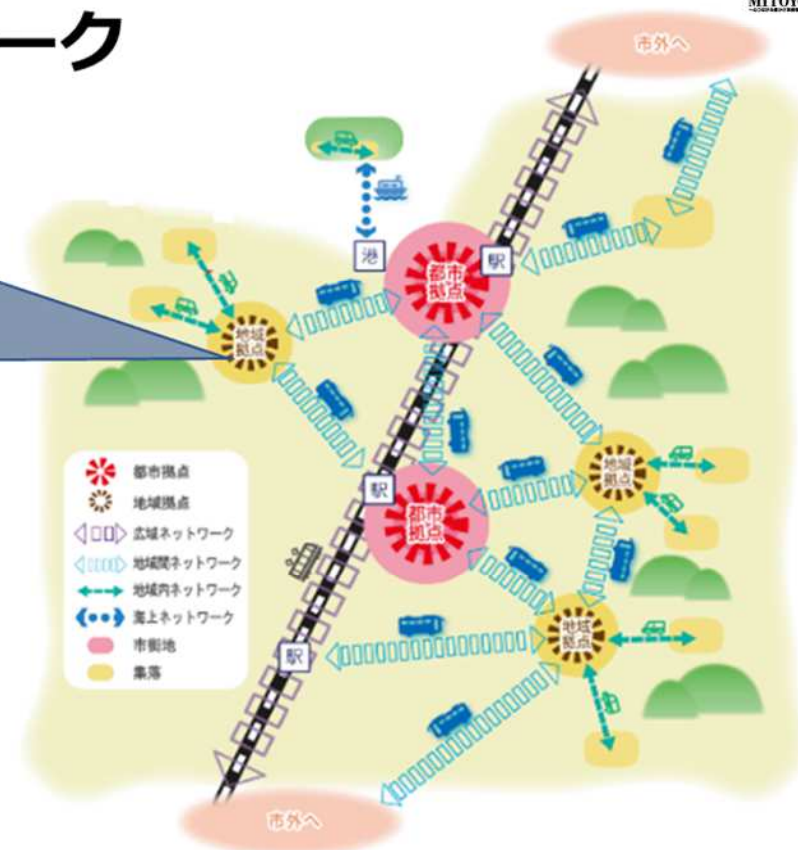
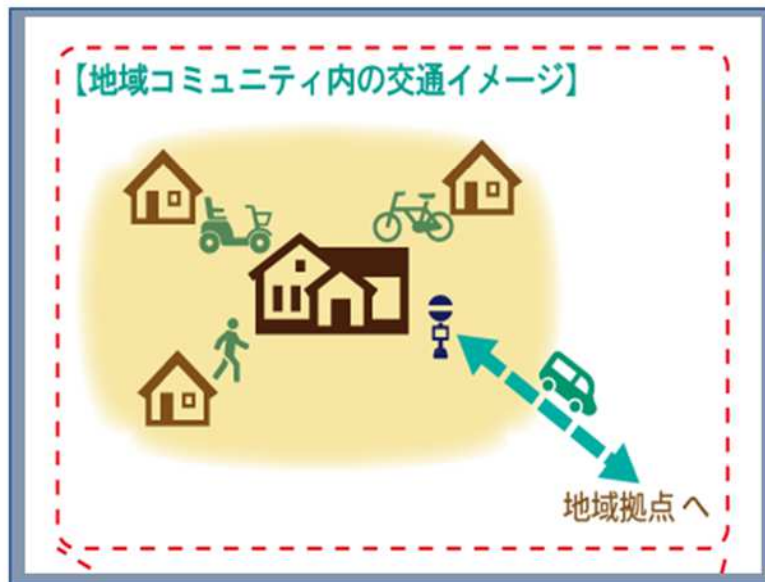
旧町毎の7つの拠点が存在
= 市の”**中心市街地がない**”

それならば…
コンパクトシティ化しない



「**多極分散型ネットワークのまち**」を目指す

“多極分散型のまち”とネットワーク



- ★ 居住に関する市民の想い
「住み慣れた場所で、ずっと幸せに暮らし続けたい」
- ★ 交通・移動に関する市民の想い
「自分の思いのままに自由に行動したい」

三豊市地域公共交通計画(令和3(2021)年度～令和7(2025)年度)

基本理念

行きたいときに
行きたいところへ 行けるまち

基本方針

●基本方針1
繋 - つなぐ
～拠点をつないで
スムーズ移動～

●基本方針2
利 - つかう
～先端技術で
スマート移動～

●基本方針3
守 - まもる
～人にも環境にも
やさしい移動～

●基本方針4
拓 - ひらく
～地域みんな
で創る移動～

三豊市の公共交通

・ JR予讃線

- ① 詫間駅
- ② みの駅
- ③ 高瀬駅
- ④ 比地大駅
- ⑤ 本山駅

・ JR土讃線

- ⑥ 讃岐財田駅

・ 粟島汽船

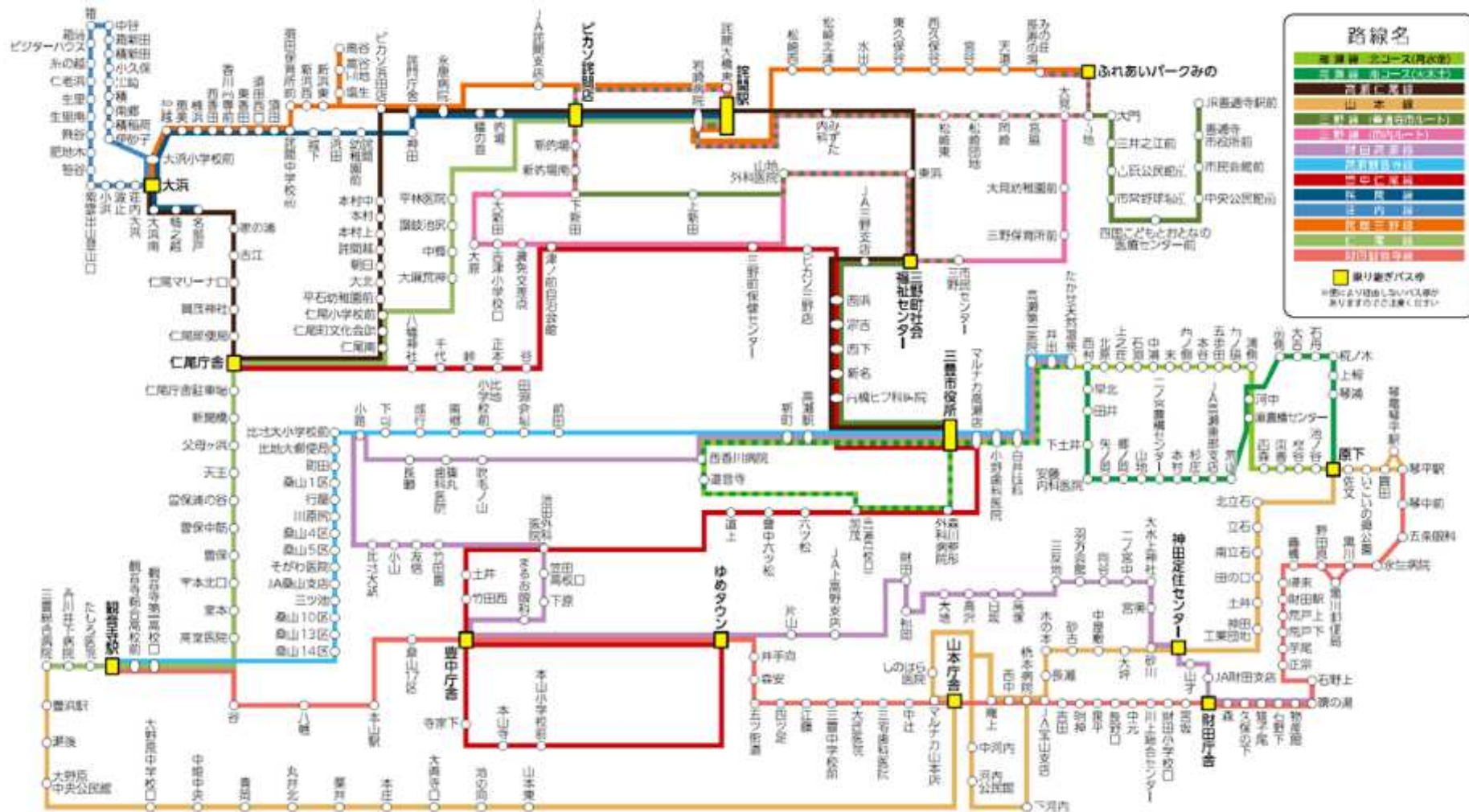
- ⑦ 須田港
- ⑧ 粟島港
- ⑨ 上新田港
- ⑩ 志々島港
- ⑪ 宮の下港

・ 三豊市コミュニティバス 12路線



民間の路線バスは撤退
タクシー会社(7営業所)

三豊市コミュニティバスの路線図



バス停数：334カ所

令和5年3月31日現在

[路線数] 12路線

[総延長] 約268.1 km (運行距離)

[総便数] 151便 (平日1日当たり)

[車両数] 14台

[バス停] 334箇所

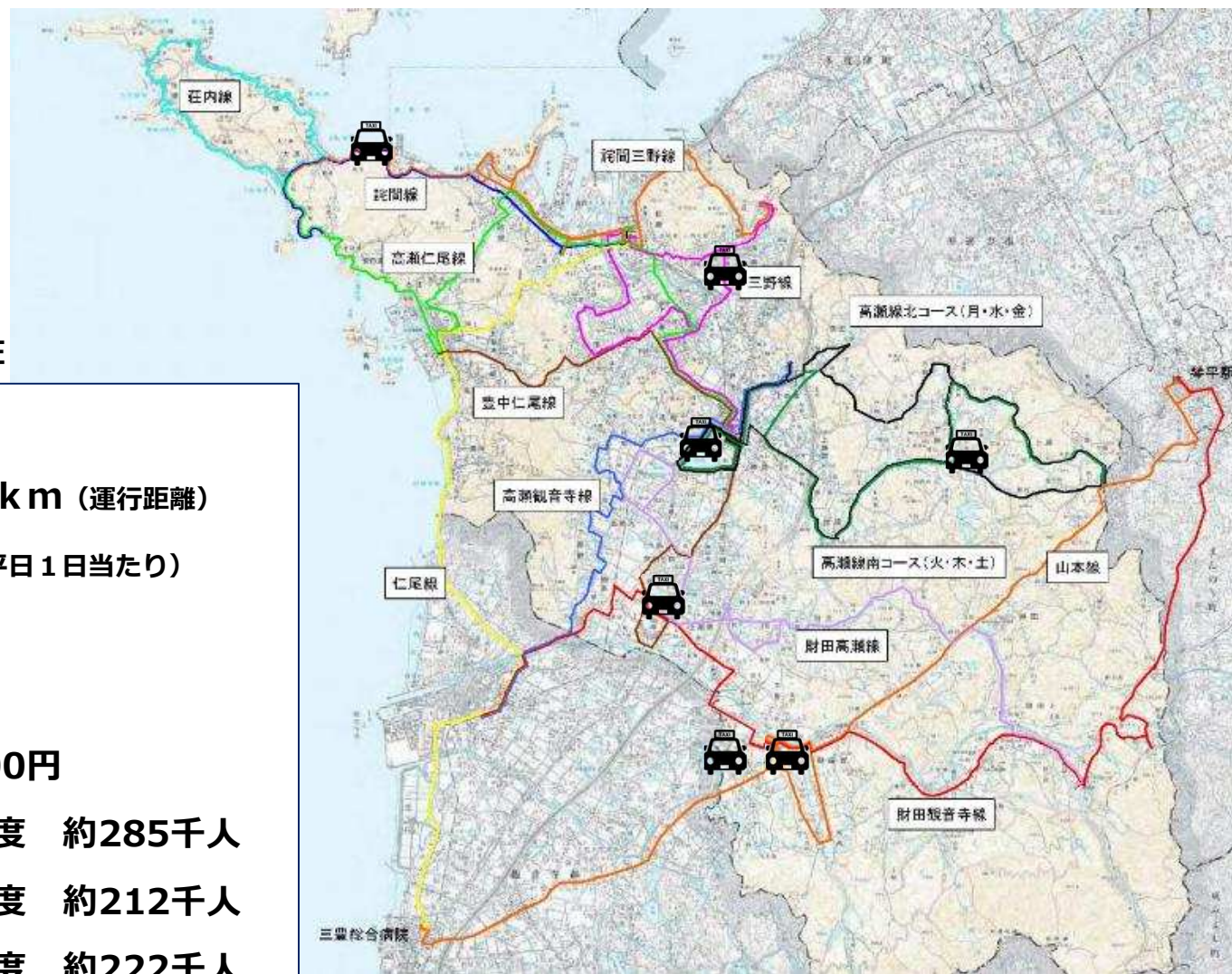
[運賃] 1乗車100円

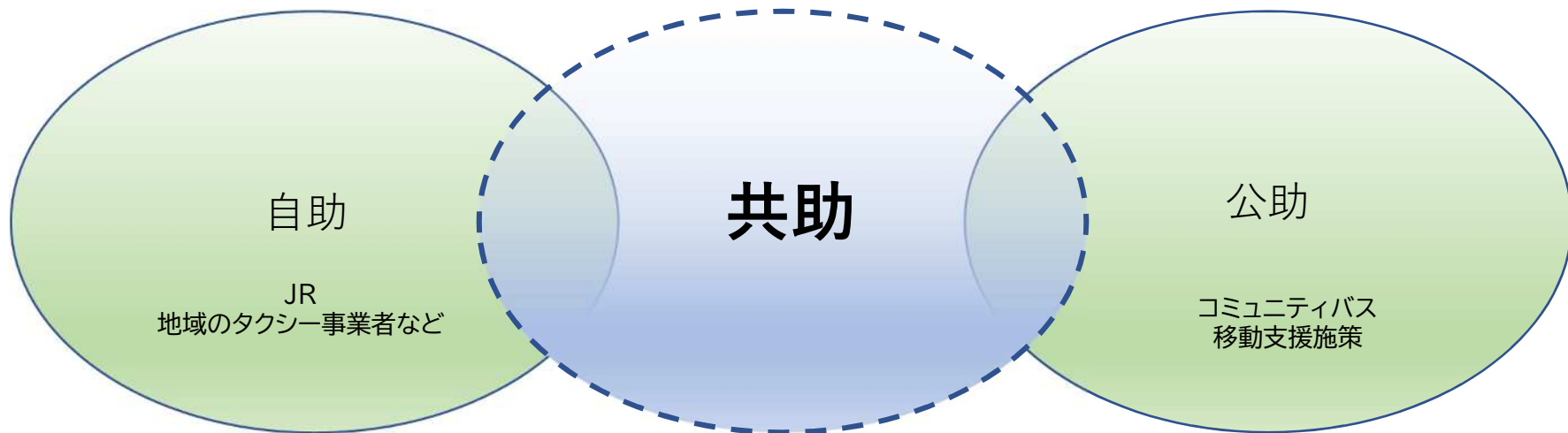
[利用者] 2019年度 約285千人

2020年度 約212千人

2021年度 約222千人

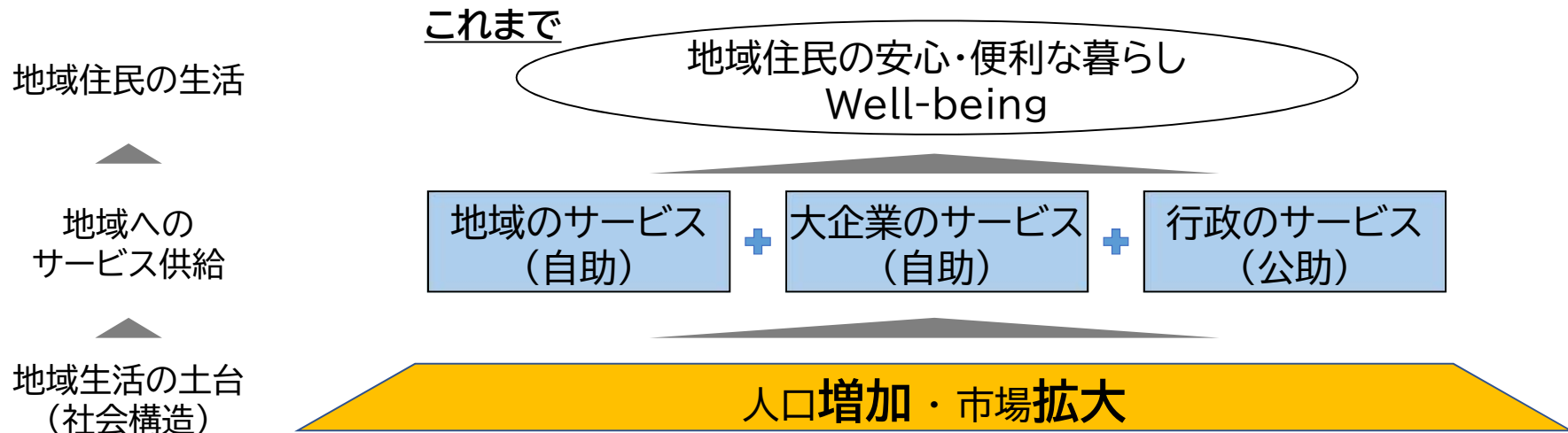
2022年度 約230千人



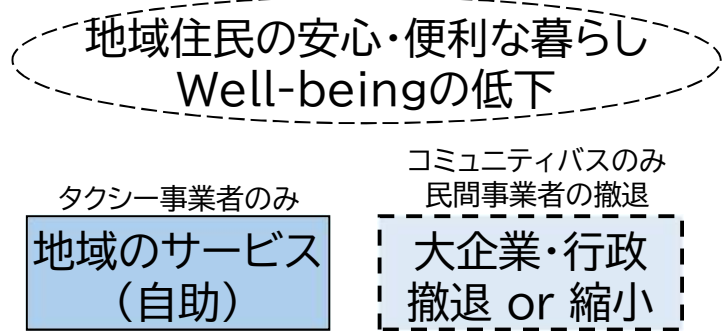


きめ細かな地域の移動課題への対応

「自助」のみ・「公助」のみの限界 → 共助によるサービスの維持

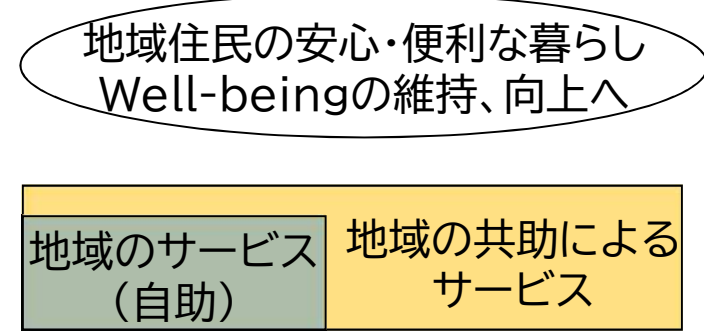


このままだと・・・どんどんサービスが縮小



人口減少・市場縮小

地域の共助を活かした取り組みを推進



人口減少・市場縮小

「まちの移動課題の解決」
三豊ベーシックインフラ事業における取組について

- 教育×移動(地域の共助による移動サービスの提供)
- 健康×移動(高齢者の移動による行動改善効果)



「移動困難者」に対する移動手段の提供及び効果検証
事業効果が地域にもたらす効果の見える化



暮らしの交通のオンデマンド交通サービス



呼べばくる。出発地から目的地の設定自由自在。
定額乗り放題の新たな移動の選択肢。
オンデマンド乗合交通サービス「みとよmobi」。



○ 教育×移動(地域の共助によるサービス)

サービス提供者

暮らしの交通株式会社 ※設立趣旨に賛同する地域内外の13社が出資

設立趣旨

企業の共助による移動支援で、「まちの課題解決」に取り組む

三豊市の課題

- ・ 生産労働人口の減少による税収の低下
- ・ 介護医療費の増加による財政の圧迫

「まちの課題」解決の取組み効果で
市の課題解決へ

「まちの課題」

- ・ 中高生支援（部活動の移動、行動範囲の制限、教育機会の喪失）
- ・ 子育て世代の保護者支援（子供の送迎、自分時間の創出）
- ・ 会社員支援（通勤費、交通費の抑制）
- ・ 高齢者支援（行動範囲の制限）

○ 教育×移動(地域の共助によるサービス)

課題・改善点	<ul style="list-style-type: none">• 学生向けには、教育領域での好影響を期待したが、実証期間の中で、短期的には利用目的のわずかしか教育関連(習い事等)はなかった。地域の教育機会の拡充・周知が課題。• 家族へのアンケート調査では、教育機会へのアクセスにおいて、「送迎」がボトルネックになっているという意見が多数。教育機会が増えるにつれて交通の課題も顕在化してくる見通し。
実証後の取り組み	<ul style="list-style-type: none">• 地域内の教育機会の創出に関しては、別の民間事業者の共助により市民大学を設立。地域の学び合いサービスを提供開始。月額定額で学び放題。高校生以下は無料。• また、市は地域の部活動改革に着手しており、これに伴って生じる移動問題との連携も視野。

○ 健康×移動(移動支援+行動改善による効果測定)

令和4年度事業実施内容

- ・免許を返納したことにより活動量が減少した高齢者を対象に、タクシーを利用してもらう事業を実施。



令和4年度成果

プロジェクト参加者17名

- ・参加者の全員が外に出る機会が増加
- ・(1か月で一人あたり平均10回程度タクシーを利用)
- ・参加者のうちほとんどが(特に精神的に)健康になったと実感した。
- ・実証前と実証中で比較し、1日の歩数が平均で1100歩増加する効果がみられた。

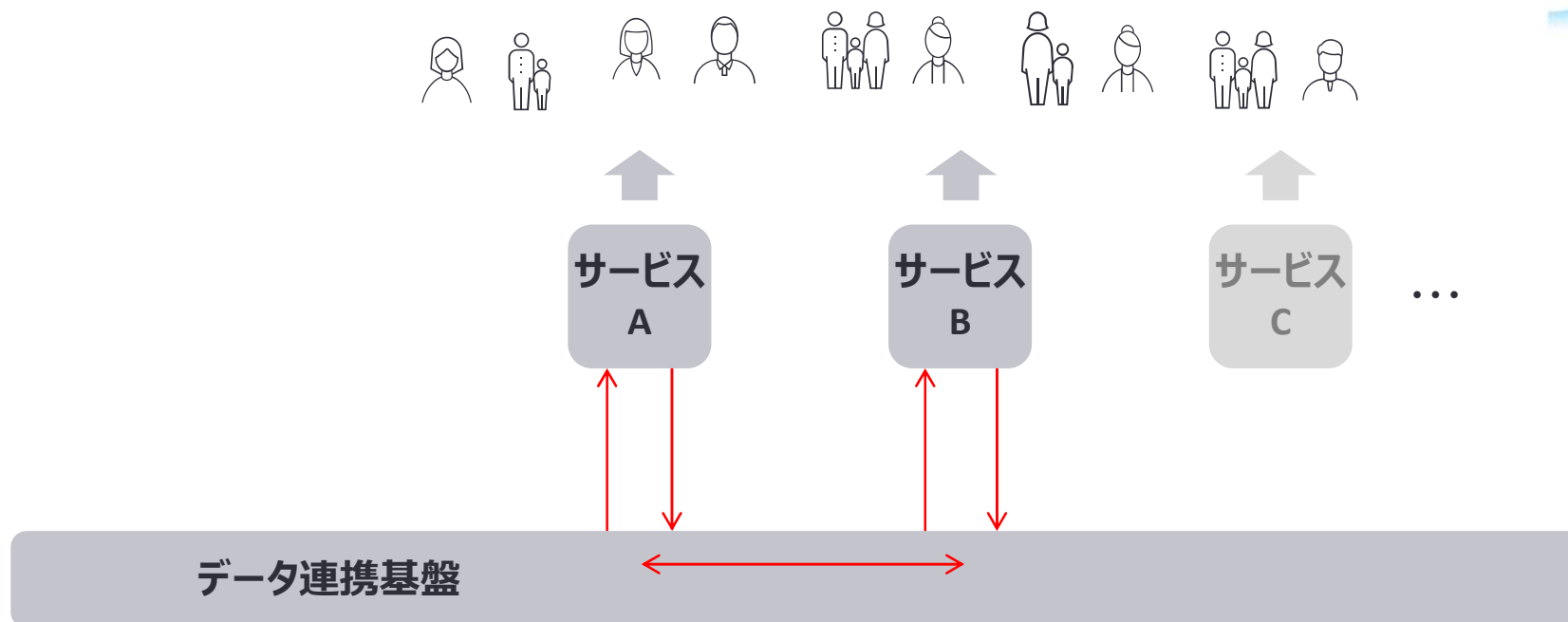


想定される中長期的な効果

要介護リスクの低減
死亡リスクの低減

→医療費の削減効果

三豊ベーシックインフラ事業の発展の方向性



「仕組み」① データ連携基盤

各サービス事業者が持つデータを連携し、相互に活用するための
システムの基盤



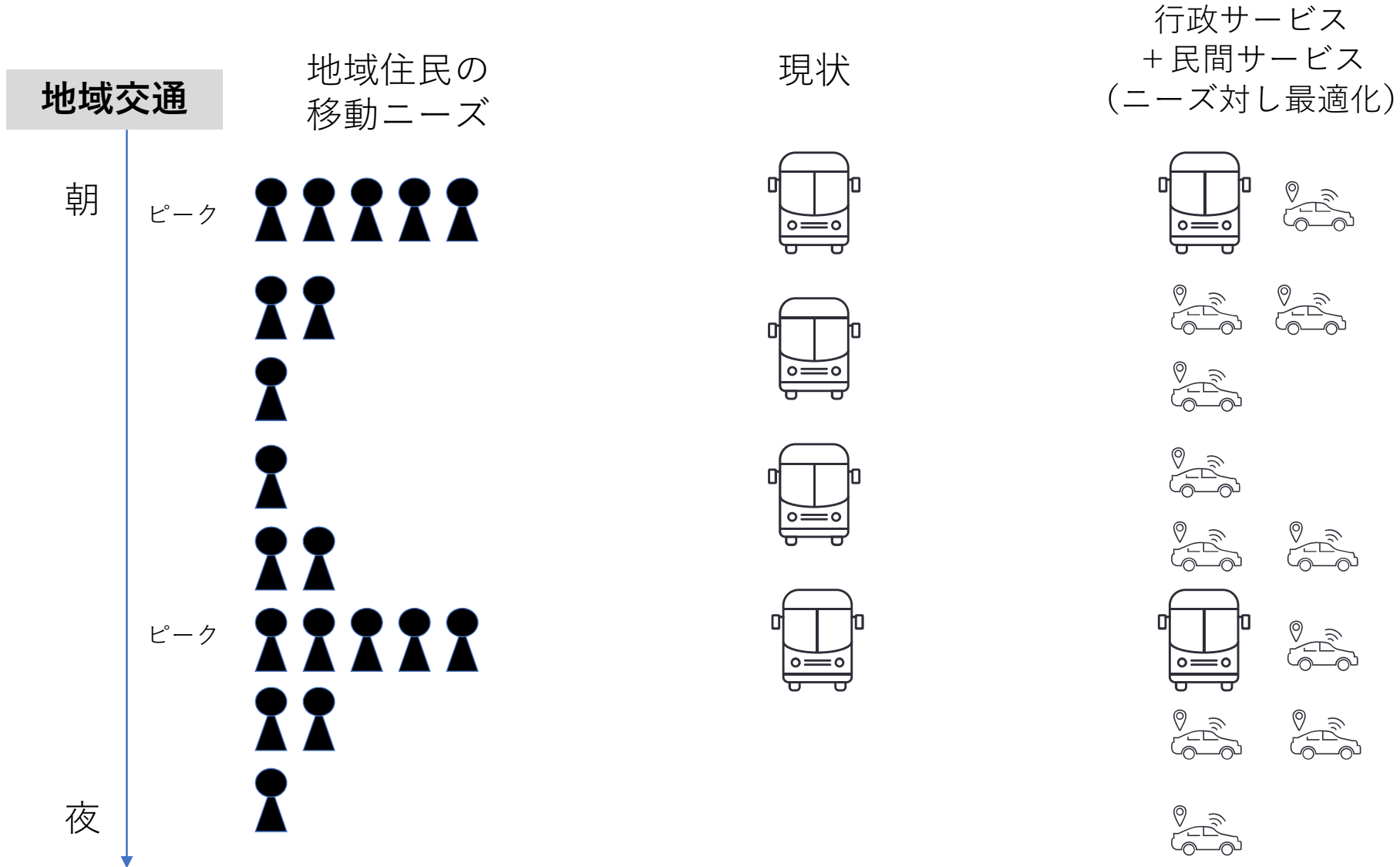
「仕組み」② サービス開発

それぞれの事業者のデータとアイデアを
組合せ、より良いサービスを企画し、
実現をサポートする体制

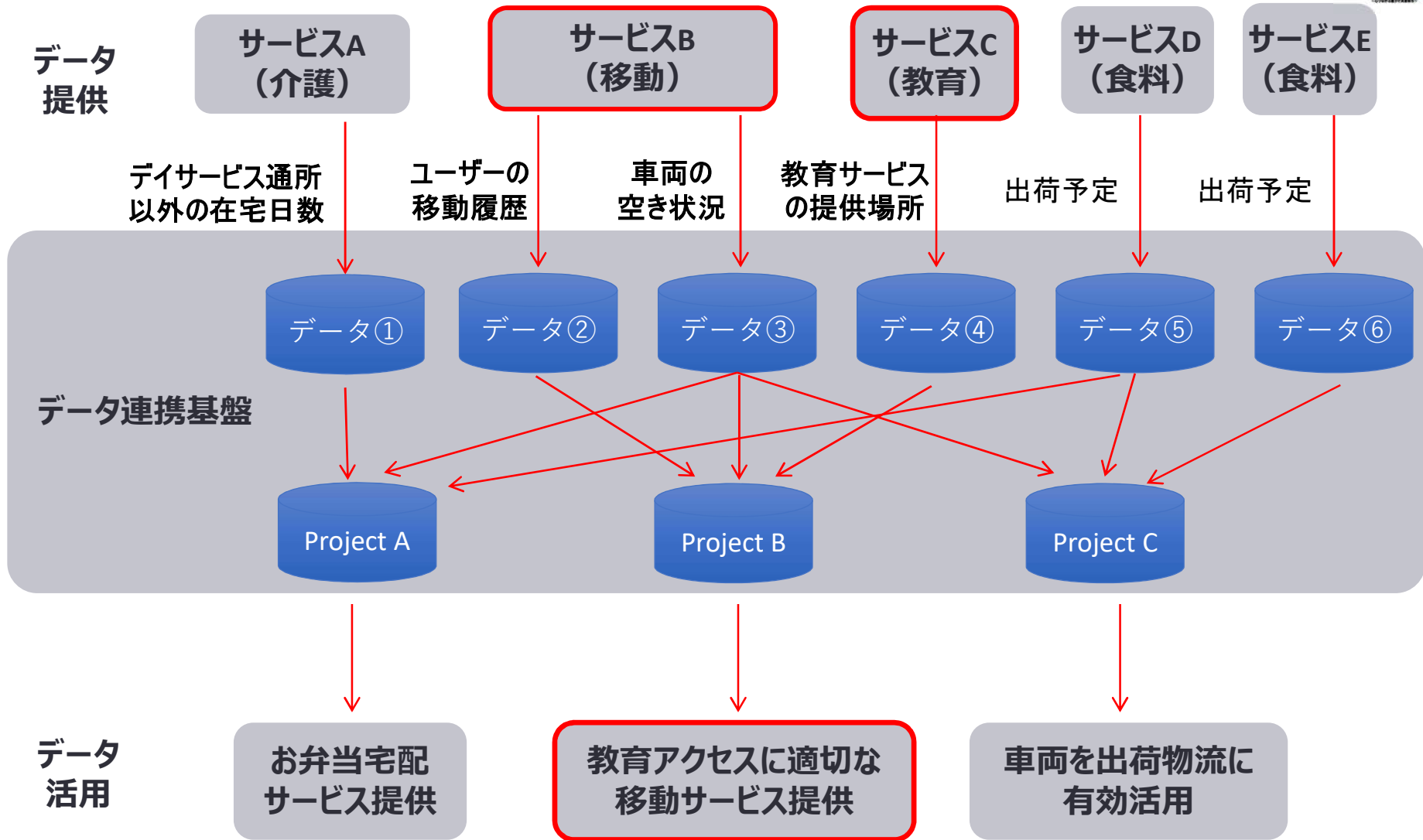
データ連携により移動サービス提供の形を地域全体で考える



「サービス提供の形を変えて、サービスレベル（住民の満足度）を向上させながら、同時にコスト縮小」を目指す。



データ連携により他分野・サービスとの共創を考える



「移動サービス」が地域全体にもたらす影響と可能性



One MITSUBISHI

①地域の**移動サービスは、もっと便利に・もっと効率良く**することができる。
(行政サービスと民間サービスの連携、データ連携、地域全体最適化)

②移動の活発化によって、**他サービス領域への波及効果を生み出す**。
(移動の不便による機会損失の解消、他の既存サービスとの連携)

③暮らしやすさを求める
移住者が増える。

④**ビジネスチャンスを作り、域外の企業投資を呼び込む。**

⑤地域としての経済力が高まり、**さらに便利・暮らしやすい地域にするための再投資の余力が生まれる。**

好循環

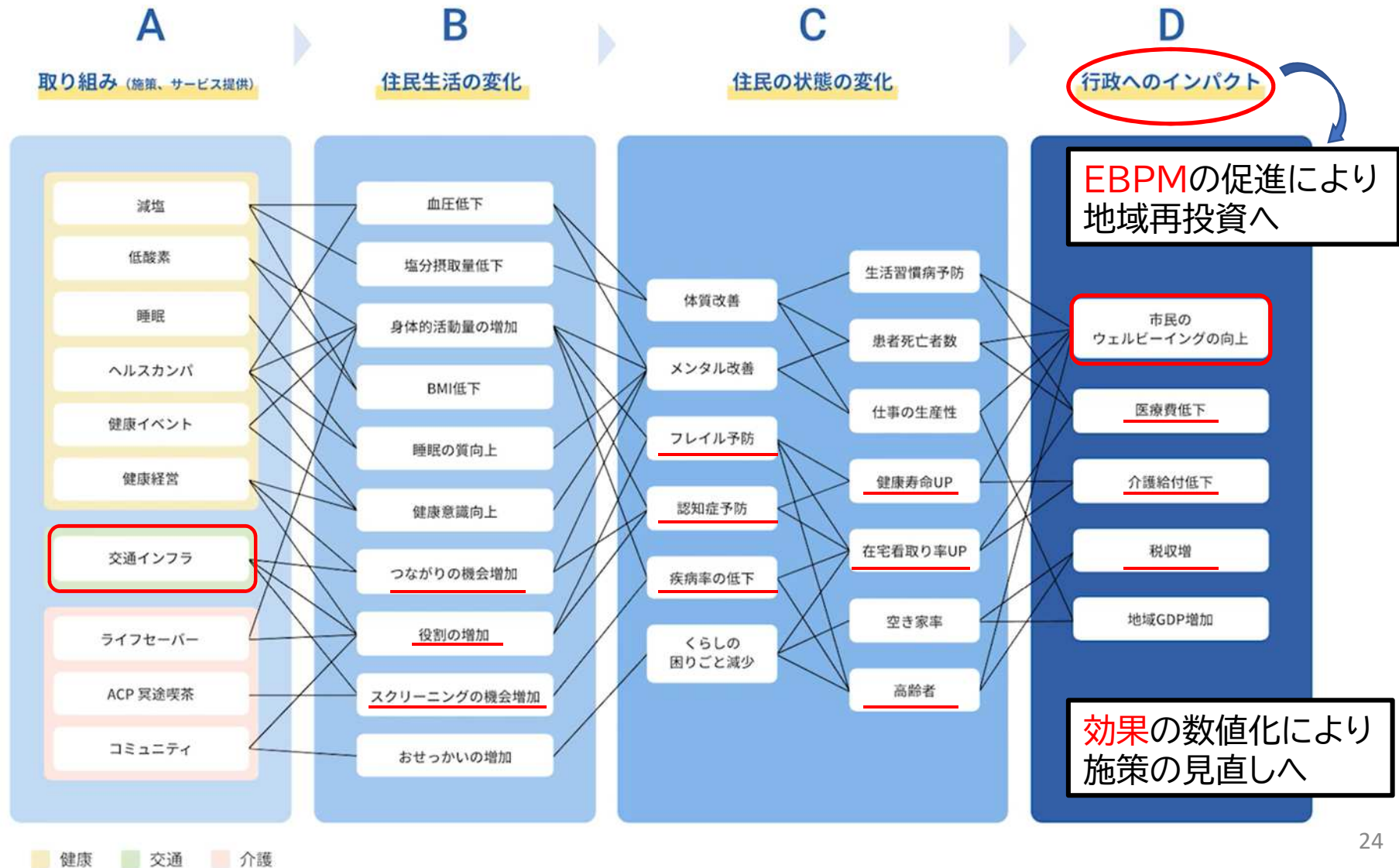
地域の移動サービスの維持・改善は、
維持コストから**投資対象**へ

エコシステムの確立により持続的なサービス提供が可能

ソーシャルインパクトの可視化への取組み

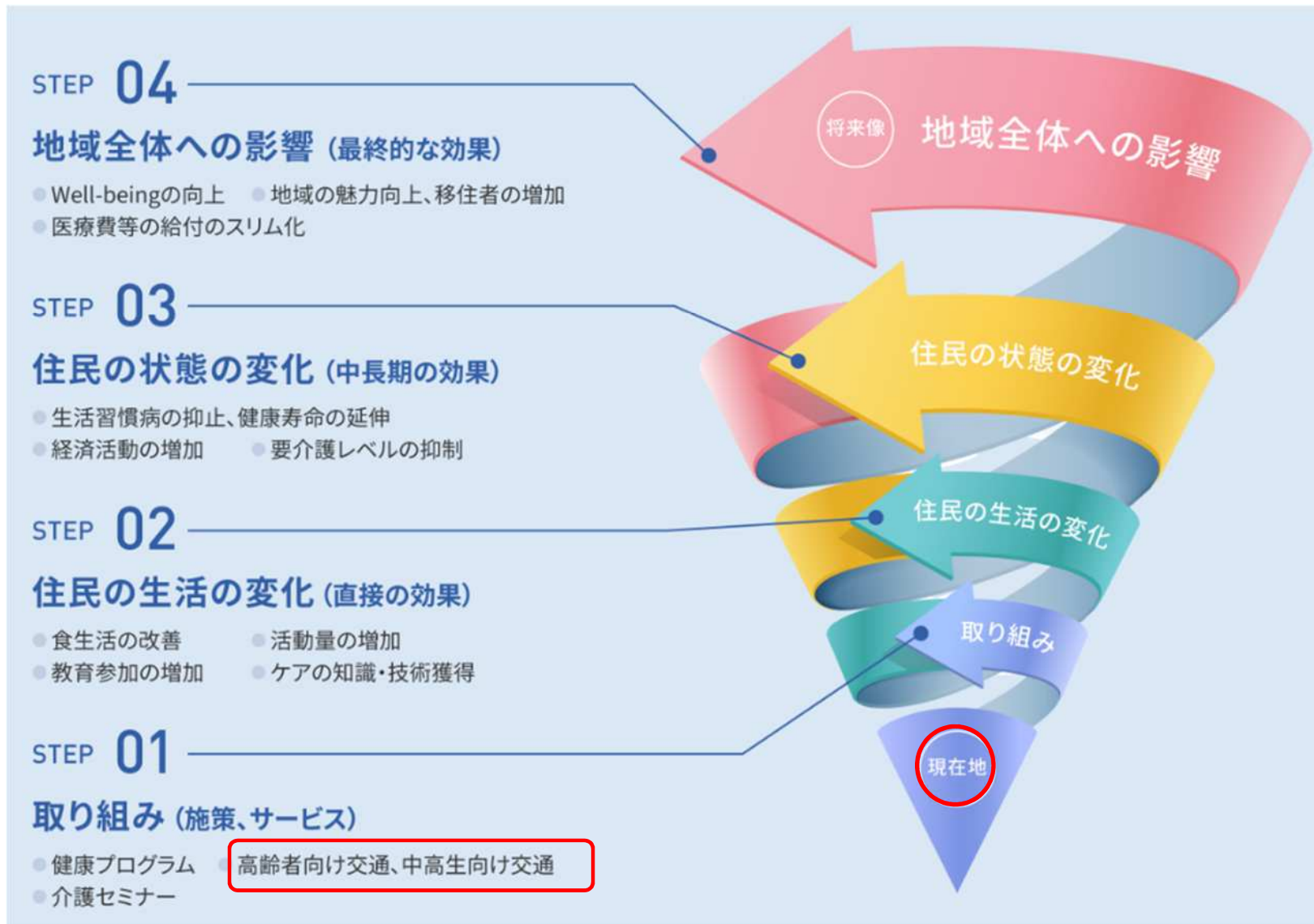
移動サービス以外の分野も含めた地域全体へのインパクトを整理

ロジックツリーを作成し、「取組み」と「効果」の関係を可視化、地域全体・行政へのインパクトまで整理



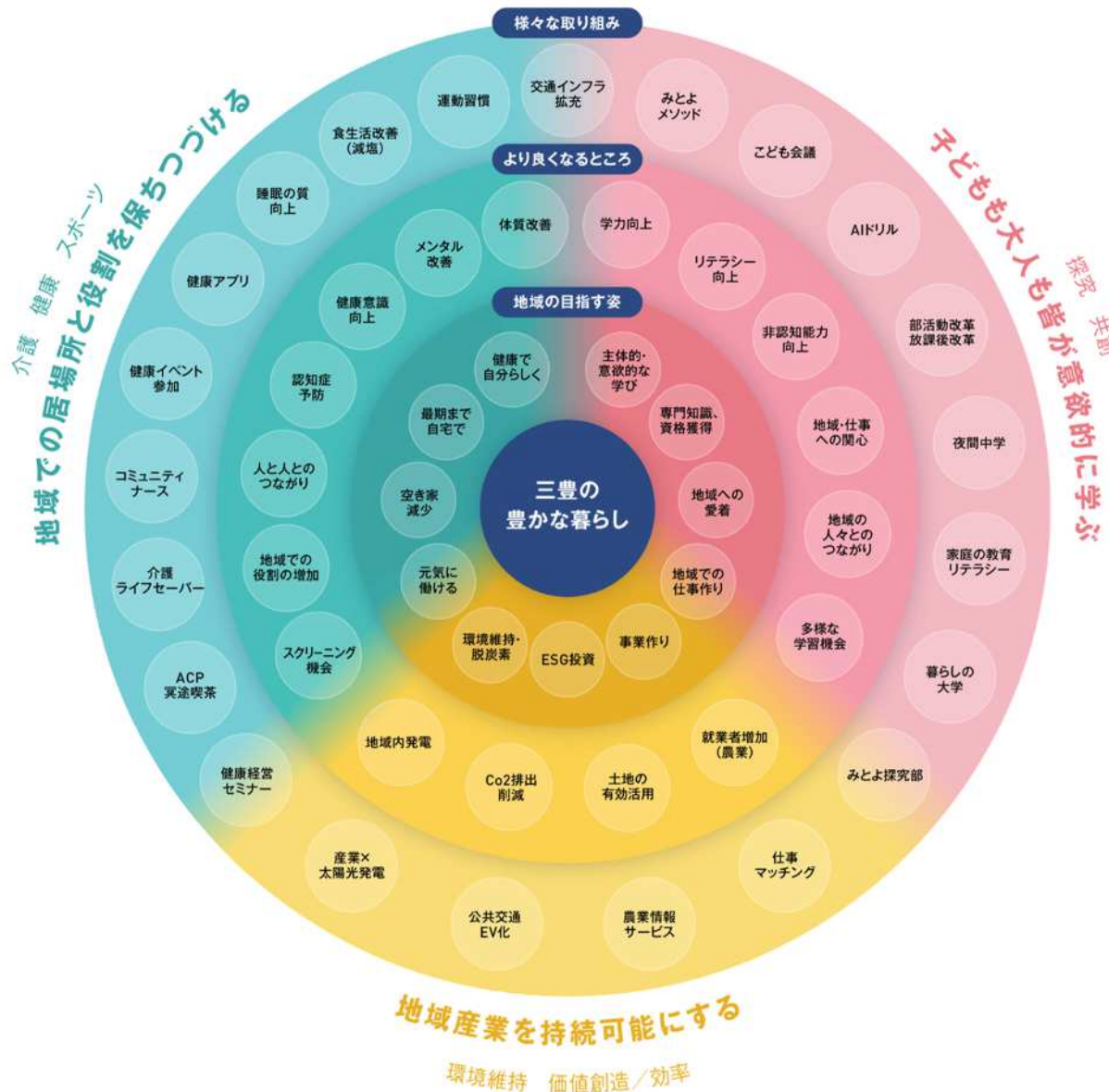
市民向けに取り組みと目指す姿をビジュアル化

市民が理解しやすいように、取り組みによる効果の段階をイメージ化



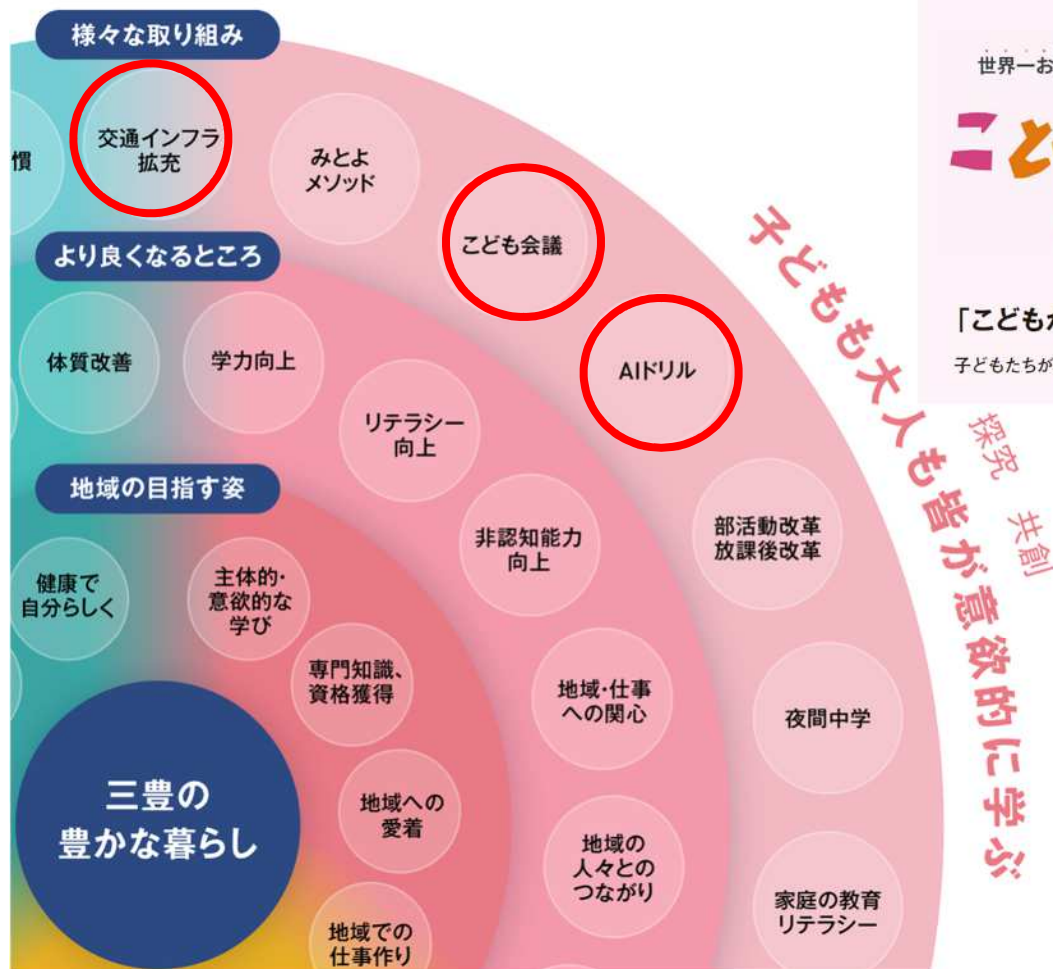
市民向けに取り組みと目指す姿をビジュアル化

市民や企業が、三豊の目指す「将来のありたい姿」と、それを実現する取り組みを確認できる**三豊未来マップ**を作成



市民向けに取り組みと目指す姿をビジュアル化

ひとつひとつの「取り組み」を行政・民間で協力して推し進めるとともに、取り組みによるソーシャルインパクトを管理・計測・開示できる仕組みを構築





MI TOYO

ご清聴ありがとうございました。

三豊市 政策部 地域戦略課
chiiki@city.mitoyo.lg.jp

